

## ・森のようちえん関係資料

鳥取県智頭町 移住・定住促進Webサイト

## 田舎暮らしのススメ



## 上野さんの田舎暮らし体験談



## 移住者インタビュー

「自家栽培の新鮮な野菜、薪で炊いたお風呂。  
都会では得られない“贅沢”がある。」

関西出身の上野俊彦さん・啓江さんご夫妻は群馬県の山奥に農場を開き、念願の田舎暮らしを始めました。まもなく長女・澪莉(みおり)ちゃんが生まれ、幸せな毎日を送る中、東日本大震災(2011年3月)が。原発事故による放射能汚染から逃れるため、家を離れるしかなかったそうです。

そんなご一家が新天地として選んだ場所が、緑の杉山に包まれたここ智頭町でした。豊かな自然の恵みを一身に受けた穏やかな田舎暮らしが、今ようやく始まりました。



早春の八河谷

◇なぜ「田舎暮らし」を考えたのですか？

上野俊彦さん：



私は神戸出身、妻は大阪と、私たち夫婦はお互い都会生まれの都会育ち。でも、そこでは将来のいいビジョンが見えなかつたんです。「子どもたちを軸にした生活を送りたい」と考えたとき、空気と水がきれいで、すべてが遊具になるような自然豊かな田舎がいいなと思いました。

啓江さん：管理栄養士を目指していましたが、学んでいくうち、「食品成分表上の数値だけで計算して提供するってどうなの？」と、疑問を持つようになりました。農薬や化学肥料、品種改良等の影響で、現代の野菜は栄養不足。「それなら私はもっといい野菜を作る側になろう」、そう思ったことがきっかけです。



家のすぐ横は清流

#### ◇智頭町との出会いは？

俊彦さん：

2010年に友人と群馬県の山奥に農場を開き、飼育する馬で「ホースセラピー」を行ったり農作物を育てたりという田舎暮らしを始めました。自然の循環を生かした、この“持続可能な暮らし”をこれからどんどん発信していくこうと考えていた矢先、東日本大震災が起こったんです。私たちが暮らす農場も、原発事故による放射能汚染に脅かされました。家族の安全を第一に考え、とにかく逃げようと妻の実家に身を寄せました。

日々明らかになる被災状況に、「もう戻ることはできない」と悟りました。新天地を求め、和歌山の那智勝浦への移住を予定していたのですが、引っ越し直前に台風襲来、土砂崩れで町に行くことができなくなってしまったんです。

そんなとき目にしたのが、自然育児系雑誌に載っていた「森のようちえん まるたんぼう」の記事。インスピレーションを感じ、早速役場に住宅・空き家情報を問い合わせました。そして、2011年10月に八河谷へ引っ越ししたんです。

——「森のようちえん まるたんぼう」は、緑豊かな智頭町の森をフィールドに、野外活動を中心にして子どもたちの豊かな成長を育む幼稚園です。デンマークで始まった幼児教育スタイルといわれています。子どもたちは森の中を元気に走り回り、草木や花、動物や昆虫たちと出会い、想像力を働かせ、心も体もたくましく成長させていきます。当時、妻の啓江さんは次女・真帆ちゃんを妊娠中。2人のお子さまを持つ上野さんご夫妻には、教育環境も外せない要素だったのですね。——

#### ◇田舎暮らしをしてみての感想は？

俊彦さん：

家の前には八河谷川が流れています、せせらぎの音がとても心地いいんですよ。家の上手に畠を2反、田んぼを1反借りて、野菜や米を育てています。自給自足の暮らしにむけて取りくんでいます。お昼になると、「お父さーん、お昼ごはん持ってきたよおー！」と叫びながら娘が走ってくるんです。なんとも言えない幸せな気分になります。



薪ストーブの前で絵本を読む満莉  
(みおり)ちゃん

うちではたまに薪でお風呂や料理を作るんですが、ボイラーだとすぐに湯冷めするのに、薪で沸かしたお風呂はいつまでたっても体がホッカホカ。煮物も不思議と煮崩れしないんです。冬は畠が真っ白な雪に埋もれますが、雪の下でも野菜はちゃんと生きているんです。「すごいね」と言いながら、子どもと一緒にニンジンを掘り起こして食べました。よく「田舎には何もない」と言う人がいますが、ここには都会では得られない“贅沢”があります。

——居間の窓から見える美しい杉山の景観は、まるで一枚の絵画のようです。温かな炎をゆらゆら揺らして燃える薪ストーブは、雪の多い智頭でも寒さを感じさせません。「広葉樹の薪だと火が長持ちするんですよ」と語る上野さんの横顔は、もうすっかり“智頭の人”です。——

◇田舎暮らしを考えている人たちへ、なにかメッセージはありますか。

俊彦さん：

田舎の敷居はそんなに高くありません。特に智頭はそう感じます。智頭町は移住者のための支援体制がすごく整っていて、本当に至れり尽くせり。僕たちが引っ越してきたときも、集落で歓迎会を開いてくださいました。皆さん優しい人ばかりで、垣根を感じません。移住者同士の交流も盛なんですよ。



今、田舎には若者の力が必要になってきています。智頭町のような山村では、山林に分け入って木を間伐したり、切り出した木材を運び出すための山道を整備したりといった森林管理の仕事がありますが、高齢化が進む中、山の整備が進んでいない状況があります。僕もボランティアで間伐のお手伝いをしたりしているんですが、これからはもう少し踏み込んでやっていきたいですね。僕たちが田舎暮らしのモデルとなり、これから移住を考えている方たちにいろんな発信ができたら、と考えています。

——八河谷には関東、四国から移住された方もあり、限界集落ではなくなりつつあります。周囲の杉山もそのことを喜んでいるかのように、緑をキラキラと輝かせています。——

## 中山間地域市町村保育料無償化等モデルに対する具体的な声

平成 26 年 5 月 19 日

子育て応援課

入所されている子育て世帯の保護者からは非常に喜ばれており、途中入所を希望する保護者の中には、居住地の保育料と比較して保育料の安い本事業の実施町に引っ越しを考えているということもあった。

町	事業規模(千円)	効果・影響
大山町	20,872	<ul style="list-style-type: none"><li>・毎年、決定した保育料額が思っていたより高額だと感じた保護者からの問い合わせがある。</li><li>・子育て世代の保護者は喜んでいると思う。</li></ul>
三朝町	12,000	<ul style="list-style-type: none"><li>・第3子の保育料が無償化になったことで、保育所入所に関する問い合わせが増えた。</li></ul>
日南町	17,300	<ul style="list-style-type: none"><li>・この事業によって、中途入所申し込みの希望が増えた。</li><li>・その中で、1名、他町から日南町に勤務する子育て世帯が、現在住んでいる町の保育料が高く自宅での保育を考えていたが、日南町の保育料が無料化になったことで、日南町に引っ越しして保育所に預けたいと考えているというケースがあった。</li></ul>
江府町	6,400	<ul style="list-style-type: none"><li>・現在入所している児童の半分以上が完全無償となり、保護者からの喜びの声は多く聞いている。</li><li>・子育て世代がどこに住もうかと考える際、子育て施策に力を入れている江府町にしようという選択肢の一つになる。</li></ul>
若桜町	9,000	<ul style="list-style-type: none"><li>・5月に1名途中入所の希望があった。保育料が無償化になったことで、気軽に相談できるようになったのではないかと思う。</li><li>・今後、移住定住につながればと期待できる。</li></ul>
	65,572	